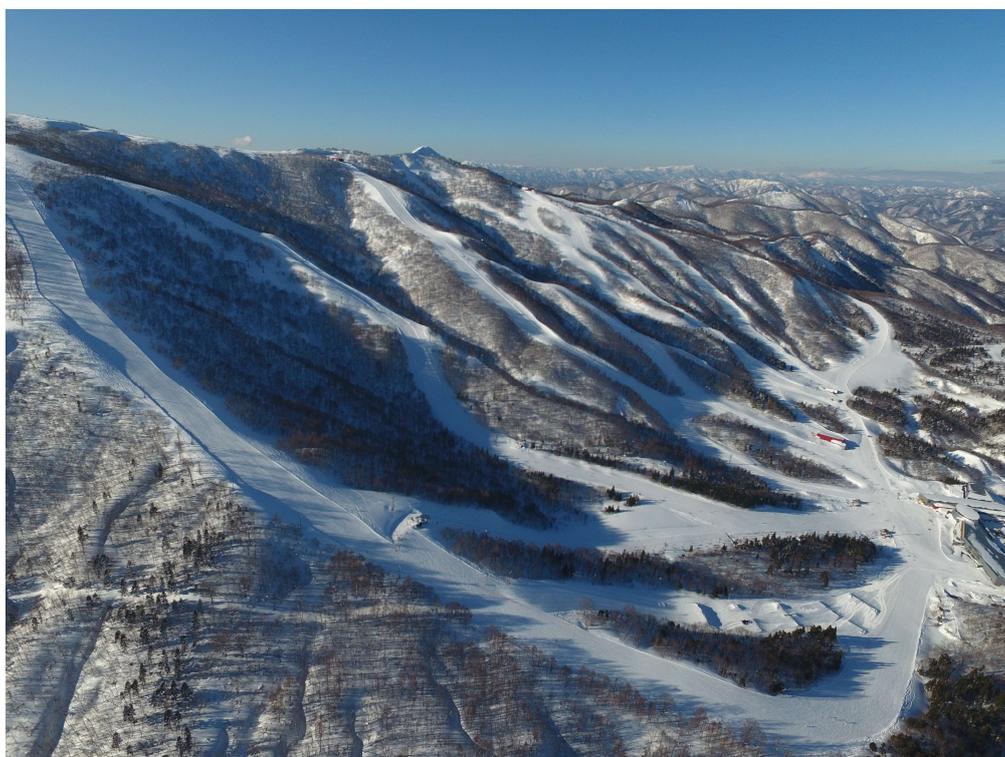


夏油高原スキー場の将来構想



令和4年6月

北上市

目 次

夏油高原スキー場の将来構想の構築

1. 主 旨	1
2. 今後取り組んでいくべき課題と今後の方向性	2
(1) 今後取り組んでいくべき課題	
(2) 10 年後に向けた主な方向性	
(3) その先の将来に向けた主な方向性	

将来構想「通年・滞在型のリゾートへ」

1. 10 年後の将来像	3
(1) 安全で快適な施設[施設の適切な維持管理]	
(2) 通年で楽しめる観光施設[グリーンシーズンの拡充]	
(3) 夏油高原エリアを巻き込むスノーリゾートの拠点[スノーリゾートの基盤形成]	
(4) 地元住民が気軽に立ち寄れる遊びの場[地元住民の利便性向上]	
2. その先の将来に向けて	4
(1) スノーリゾートの形成に向けた環境づくり	
(2) 環境と開発の両立	

夏油高原スキー場の将来構想の構築

1. 主旨

平成5年12月にオープンした夏油高原スキー場は、世界に誇る良質なパウダースノーと国内屈指の豊富な積雪量を誇り、ウィンターシーズンには約10万人のスキー客やスノーシューハイキングを楽しむ人々が訪れています。また、グリーンシーズンには夏油高原まつりや夏油高原トレッキング等のイベント会場となっているほか、キャンプ場やアクティビティが利用されています。ウィンターシーズンにおける雇用創出やスポーツの振興のほか、子供たちの野外教育活動・体力向上の一環として貴重な体験が行える施設となっており、夏油高原エリアの通年観光の拠点として重要な役割を果たしています。

また、平成31年に岩手県立大学と共同で行った「夏油高原スキー場による北上市への経済波及効果」の研究結果によれば、調査対象期間とした平成26年から平成30年の平均で年間約10億円の経済波及効果が見込まれます。夏油高原スキー場は地域経済に大きな効果をもたらしており、当市にとって欠かすことのできない観光資源といえます。

平成25年7月1日からは公設民営方式を採用しており、現在、株式会社北日本リゾートが当市と「夏油高原スキー場施設の使用貸借契約」を締結して運営を行っています。契約期間は令和5年6月30日までの10年間となっており、当該契約において、「借主は、契約期間満了後も事業を継続する意思がある場合には、契約期間満了の2年前までに貸主に対しその旨の意思表示をしなければならない」としています。借主である㈱北日本リゾートからは、令和3年6月30日に事業継続届出を受けており、今後選考委員会を開催して継続の可否について審査を実施します。

市は、夏油高原スキー場の継続に向けて今後の方向性を整理する必要があるとし、令和3年度から「夏油高原スキー場の将来構想の構築」を重要課題と位置付けて、関係団体との意見交換や「夏油高原スキー場の未来を考えるフォーラム」を開催し、関係団体及び有識者、市民の皆様からの意見を募りました。また、北上市議会(産業建設常任委員会)から観光振興に関する提言を頂いたほか、令和3年度夏油高原スキー場運営評価委員会から、近年の運営の成果と反省点及び今後の展望と運営方針等についての提言と意見を頂きました。

本将来構想は、皆様から頂いた意見を参考としながら策定しており、今後取り組んでいくべき課題や今後の方向性、夏油高原スキー場が概ね10年後に実現したい将来像とさらにその先の将来に目指すあり方について示すものです。次期運営事業者の選考にあたっては、本将来構想に合致する事業者の選考を行うこととしています。

【令和3年度 夏油高原スキー場の将来構想の構築の経緯】

令和3年6月30日	㈱北日本リゾートから「夏油高原スキー場管理運営事業継続届出書」提出
令和3年7月～	施設の維持管理等の計画協議
令和3年10月	経済波及効果の公表
令和3年10月19日	夏油高原スキー場の運営について説明(市議会全員協議会)
令和3年11月～12月	関係団体等との意見交換会
令和3年12月17日	夏油高原スキー場の将来構想の構築に向けた基礎資料について説明(市議会全員協議会)
令和4年3月25日	北上市議会(産業建設常任委員会)の観光振興に関する提言
令和4年3月27日	夏油高原スキー場の未来を考えるフォーラム開催
令和4年3月28日	令和3年度夏油高原スキー場運営評価委員会

2. 今後取り組んでいくべき課題と今後の方向性

夏油高原スキー場の施設の現状や現運営事業者との協議、関係団体との意見交換及び夏油高原スキー場の未来を考えるフォーラム、北上市議会(産業建設常任委員会)、夏油高原スキー場運営評価委員会から頂いた提言・意見等から、今後夏油高原スキー場が特に取り組んでいくべき課題及び今後の方向性を次のとおり整理しました。

(1) 今後取り組んでいくべき課題

- ・ 施設の老朽化に対応する必要があります。
- ・ 宿泊機能の充実を図る必要があります。
- ・ グリーンシーズンコンテンツの拡充を図る必要があります。
- ・ 地域団体等との連携強化を図る必要があります。

(2) 10年後に向けた主な方向性

- ・ 地域との連携を強化しながら公設民営方式による運営を継続し、地域経済への効果を維持します。
- ・ 施設の維持管理計画を策定し、運営事業者と連携して現状の施設を適切に維持します。
- ・ グリーンシーズンのコンテンツを拡充し、通年型の観光施設としての充実を図ります。
- ・ 地域団体等との連携を深め、夏油高原エリア全体での活性化を促進し、スノーリゾートの基盤を形成します。
- ・ リゾート化に向けた運営事業者の取り組みを支援し、滞在型の観光施設としての充実を図ります。
- ・ 地元住民の利便性向上を図ります。

(3) その先の将来に向けた主な方向性

- ・ 夏油高原エリアのブランディング強化や DMO 設立に向けた取り組み、周辺地域と連携したコンテンツの充実等を推進してスノーリゾート形成を実現し、北上市の観光拠点の一つとして夏油高原の魅力の世界に発信します。
- ・ 持続可能な観光を目指し、自然環境及び地域資源を保護しつつ、民間活力による施設環境整備の仕組みづくりを検討します。

将来構想 「通年・滞在型の夏油高原リゾートへ」

ここに、10年後に実現したい夏油高原スキー場の将来像について、4つの姿を提示します。また、さらにその先の将来を目指す2つのあり方を提示し、その実現を目指し推進します。

1. 10年後の将来像

(1) 安全で快適な施設[施設の適切な維持管理]

開館から30年近く経過する施設は老朽化が進んでおり、適切に維持管理していくことが必要です。

市は、施設の診断及び改修計画の立案に着手し、40年目となる令和15年を目途に長寿命化工事等を実施します。それまでは、運営事業者と連携しながら部分的な更新及び修繕による維持管理を適切に行います。索道施設に関しても同様に、リノベーションを行いながら、外観や主要部品を更新し、索道施設の長寿命化を図ります。併せて、運営事業者においては十分な施設の点検及びメンテナンスが実施できる体制を構築します。

市は、令和5年7月1日以降の運営事業者が決定後、運営事業者と協議の上で施設維持管理計画を策定するとともに、施設の大規模改修に係る包括協定を締結し、経費負担を行います。

(2) 通年で楽しめる観光施設 [グリーンシーズンの拡充]

スキー人口の減少が著しい昨今では、スキー場の運営の形として、スキー以外の魅力も発信していくことが重要です。夏油高原スキー場においても、近年整備されたキャンプ場を始めとするグリーンシーズンのコンテンツは高く評価されているところであり、今後も通年型の観光施設としてさらなる拡充が求められています。運営事業者と連携し、キャンプやトレッキングをはじめとしたアクティビティや合宿の誘致、音楽や飲食を取り入れたイベントの充実を図ります。

(3) 夏油高原エリアを巻き込むスノーリゾート形成の拠点 [スノーリゾートの基盤形成]

スノーリゾートは観光客の長期滞在や消費拡大に向けて有力なコンテンツです。ウィンターシーズンのスキー以外のコンテンツにおいても自然の豊かさ等を味わうことのできる滞在型リゾートを目指します。

スノーリゾートへのインバウンド需要をタイムリーかつ的確に取り込んでいくためにも、地域団体や近隣施設等との連携を深め、夏油高原エリア全体の活性化が求められています。運営事業者が中心的な役割を担いつつ、夏油高原スノーリゾート協議会の取り組みを活性化する等、地域の関係者と一体となって夏油高原エリアのスノーリゾート形成を目指します。

なお、大人数の宿泊を伴う大会や合宿の誘致、ファミリー層の滞在等に対応する宿泊機能の拡充が求められており、リゾート化に向けた運営事業者の取り組みを支援し、滞在型の観光施設としての充実を図ります。併せて、土地の取得を含めた運営手法等、国有林野におけるスノーリゾート形成のあり方について研究します。

(4) 地元住民が気軽に立ち寄れる遊びの場 [地元住民の利便性向上]

コロナ禍によりインバウンドの観光需要が減少している現状では、地元のファンを増やしていくことも重要です。地元住民の利便性向上のため、運営事業者と連携し、地元に向けた取り組みの周知及び気軽に立ち寄れる要素、地元住民がリピーターとなる工夫等を取り入れた事業展開を実現します。

2. その先の将来に向けて

(1) スノーリゾートの形成に向けた環境づくり

市は、令和3年度に策定した産業ビジョンの中で、観光業の振興の方針として、夏油高原エリアや展勝地エリア等における「地域の稼ぐ力を育む観光資源の磨き上げ」を掲げており、夏油高原スキー場を中心としたウィンターシーズンの滞在コンテンツの充実及び国際競争力のあるスノーリゾート形成に向けた取り組みの推進、通年型アウトドアフィールドとしてのブランディング強化に取り組むこととしています。

恵まれた観光資源である「パウダースノー」・「豪雪」を最大限に生かし、インバウンドの拡充等、ニーズを的確に捉えながら、地域の人々と共に「夏油」の魅力を世界に向けて発信し、世界中の人々から選ばれる夏油高原リゾートを目指します。

(2) 環境と開発の両立

夏油高原スキー場の将来を形作っていく上で、持続可能な観光を実現していくことは必要不可欠です。「夏油高原リゾート」をフィールドとして、自然環境への配慮や地域住民との共存、次世代を担う人材育成等、様々な観点で持続可能な社会を意識した取り組みの活性化を目指します。

その中でも、今後の開発等において必要以上の開発及び環境破壊がされることのないよう、市が制御できる状態を維持し、かけがえのない自然環境・地域資源を保護します。

また、施設環境においては、隣接地の開発に関連して外資を呼び込む等、市の負担金を永続的に支出するのではなく、民間活力による整備を可能とする仕組みづくりを検討します。